

倶多楽火山

○大正地獄の10月11日-12日に起こった熱泥水噴騰

11日夕方から12日早朝にかけて、規模の大きな熱水噴騰が起り、多量な熱泥水が噴出した。

熱泥水は大正地獄の北側に噴出したことを示すように、噴出土砂は北北西～北西方向を中心軸に大正火口から約40mの範囲に薄く分布し、南側には認められない。土砂は比較的かわいた粒径数ミリ以下の細砂および灰で、水を含み粘土状を呈していた5月3日の噴出物とは異なる。笹の葉に付着している噴出物を見る限り、土砂噴出量は5月3日より少ないようである。

また噴出した熱水は大正地獄から沢にそって流出したほか、展望台から地震計設置地点方向にも流下した。

この流下に伴い、地震観測用ロガーを納めていたプラスチックケースは下流側へ流れ、ケース内にも熱水が侵入し、ロガーも熱水を浴びた。また熱水温度観測用センサー・記録計も亡失し、熱水流出が激しかったことが分かる。

なお現地の美化財団職員によると、熱水流出は激しく、大湯沼川との合流地点では、引湯管が下流側に曲がったほか、遊歩道護岸の石が流され、遊歩道の一部は冠水したとのことである。



写真1. 遊歩道の橋から大正地獄方向を見た写真。(図1 A点) 遊歩道は灰色の噴出物で覆われ、笹の葉にも噴出物が付着している。



写真2. 大湯沼川との合流地点(図1 B)からみた上流部。引湯管が曲がっているのが分かる。

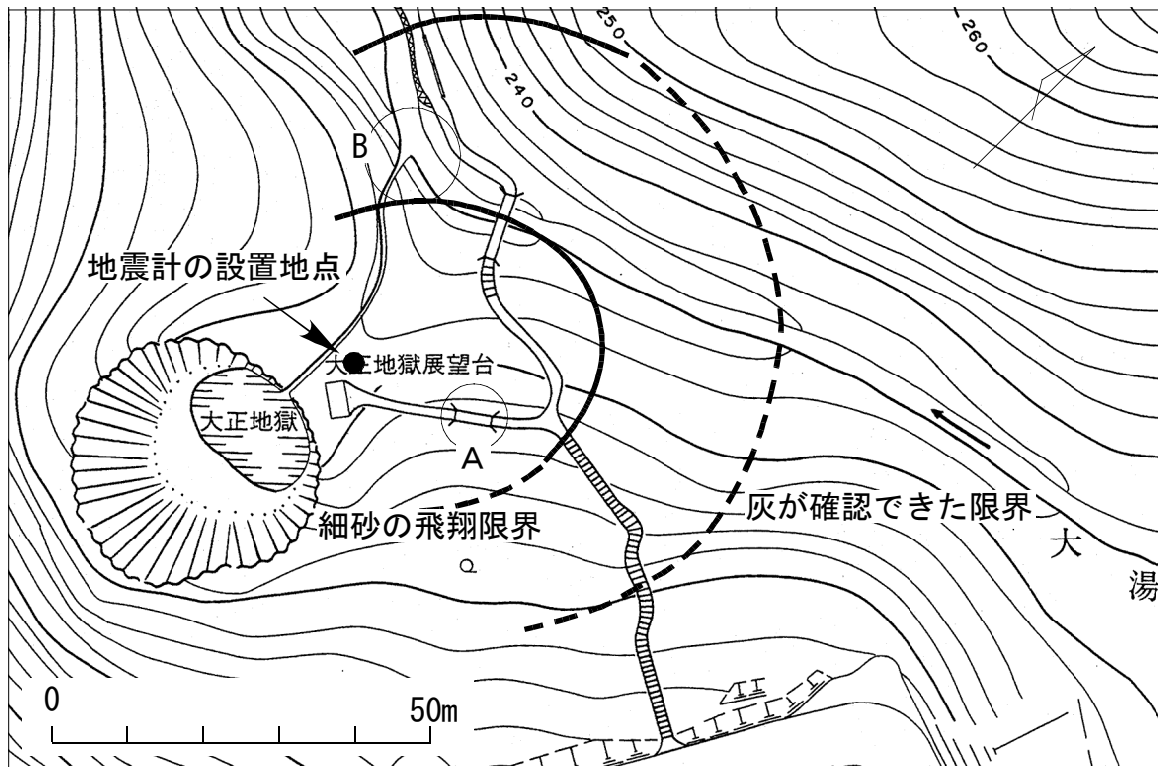


図1. 噴出物の分布範囲

倶多楽火山

○残された地震観測データから推定される熱泥水噴騰時刻

